

第四十六回帝國議會
衆議院
陪審法案委員會會議錄(速記)第七回

會議

大正十二年二月二十二日午前十時三十五分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 鷗澤 總明君
理事 黑住 成章君
宮崎三之助君 大道寺慶男君
原 次次郎君 水野吉太郎君
熊谷 直太君 横山金太郎君
高柳覺太郎君 鈴木富士彌君
出席國務大臣左ノ如シ
司法大臣 岡野敬次郎君

出席政府委員左ノ如シ

司法省刑事局長 林 賴三郎君
司法省行刑局長 山岡萬之助君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

陪審法案(政府提出)

○鷗澤委員長 是ヨリ陪審法案ノ委員會ヲ開キマス——
鈴木君

○鈴木委員 愈、今日ガ最後ノ質問日デアリマスカラ、成
ベク簡單ニ要領ヲ御尋致シタイト思ヒマス、此陪審法案ニ
付キマシテ、私ハ重大ナ缺陷ガ一ツアルヤウニ思フノデアリ
マス、或ハ御意見ガ政府委員ト違フカモ知レマセヌガ、免
角私ハサウ云フ考ヲ持テ居リマスノデ、其事ニ付テ質問
ヲスル準備ト致シマシテ、二點御尋致シタイ事トガアリマ
ス、「イエス」トカ「ノー」トカ云フヤウナ簡單ナ御答辯デモ差支
ナイノデアリマス、ソレハ陪審ニ關スル刑事檢事ノ待遇問
題デアリマスルガ、司法官優遇ノ事ハ既ニ屢、委員會ニ質問
ガアリ、又屢、御答辯ガアデ、政府ノ御意志ノ存スル所モ
略、了解致シテ居リマスカラ、其點ハ質問致シマセヌ、唯、陪
審ニ關スル刑事檢事ノ優遇スルコト云フコトニ付テ、此優
遇ト云フハ陪審ニ關スルノ故ヲ以テ、普通ノ俸給ニ加
俸ヲスルト云フヤウナ制度ノ立前ニナルノデアリマセウカ、恰
モ外交官ガ海外ニ駐在スルノ故ヲ以テ加俸サレ、海軍將校
ガ海上勤務ヲスルノ故ヲ以テ加俸サレト云フヤウナ趣意
デ、加俸サレト云フヤウナ立前ニナリマセウカ、或ハ此方面
ニ練達堪能ノ士ヲ向ケナケレバナラヌカラ、隨テ待遇ヲ好ク
サレタ者ヲ偶、其方面ニ配置スルト云フ趣意ニ過ギヌノデア
リマセウカ、是モ略、意味ハ分デ居リマスケレドモ、念ノ爲ニ
一寸御伺致シマス

○林政府委員 其點ハ將來ドウ云フ風ニ變更スルカ分リ
マセヌガ、只今迄ノ計畫デハ、陪審事件ヲ取扱フ故ヲ以テ加
俸スルト云フ主義デナクシテ、所謂練達堪能ノ士ヲ以テ陪
審事務ヲ扱ハシメル、隨テ今日ノ官等俸給令ノ上ニ於キマ
シテ、刑事檢事ニハ矢張段々階級ガアルノデアリマスカラ、其
地位待遇ヲ厚クスル、斯ウ云フヤウナ考ニナテ居リマス、
具體的ニ申スト云フト、陪審事件ヲ扱フ裁判長ハ地方裁
判所ノ部長デアリマスケレドモ、控訴院部長ト大體同格ノ
人ヲ持テ行ク、隨テ地方裁判所部長ニ勅任ノ位地モ設ケ
ル、斯ウ云フヤウナ大體ノ考ニナテ居リマス

○鈴木委員 第二ノ前提質問ヲ致シタイト思ヒマス、陪審
裁判ニ於テ檢事ハ公訴事實ヲ立證シ其公訴ヲ維持スル爲
ニ、非常ナ努力ヲ必要トスルヤウニ私共考ヘルノデアリマス、
詰リ俗語デ言ヘバ檢事ガ非常ニ骨ヲ折ル、是ハドウモ否定
スベカラザルモノ、ヤウニ思フノデアリマスルガ政府モ左様ニ
御考デアリマスルカ

○林政府委員 ソレハドウモ御尋ノヤウニ檢事ノ公判廷ニ
於ケル努力ト云フモノハ、普通ノ手續トハ比較ニナラヌモノ
ダラウト考ヘテ居リマス

○鈴木委員 宜シソコザイマス、ソコデ始メテ私ノ本當ノ質
問ニ入ルノデアリマス、此質問ハ昨日非公式ニ林並ニ山岡
兩政府委員ニモ一寸申上ゲマシタガ極メテ重要ナ點デア
ルト心得マスカラ公式ニ御答辯ヲ承テ速記録ニ留メテ置
イタイト思ヒマス、今御尋致シマシタ前提問題ヲ肯定サル、ト
致シマシタナラバ、此陪審法案ハ、吾々ノ最モ懸念スル缺陷
ガ生ジテ行クノデナイカト思ヒマス、即チ檢事ガ事件ヲ陪審
ニ掛ケルト非常ニ骨ガ折レル、骨ガ折レルノミナラズ、ドチ
カト云ヘバ其公訴事實ハ根柢カラ覆サレル方ガ恐ラク多イ
ダラウ、サウスルト職務上ノ成績ニモ影響スル譯デ、而シテ事
件ヲ陪審ニ掛ケタガ爲ニ、特別ノ加俸ヲ受ケルト云フ譯デ
モナイトスルナラバ、檢事正トシマシテハ、事件ヲ陪審ニ掛
ルコトヲイヤガル傾向ニナテ來ハスマイカト思フ、是ハ人情
ノ當然デナイカト思ヒマス、是ハ決シテ攻撃スルノデモ何デモ
ナイ、人情當然サウ云フ考ニ落テテ來ハスマイカト思フ、無
論日本ノ檢事ニサウ云フ不都合ノ事ヲ考ヘル人ノ無イト云
フコトハ、私モ諒解ハ致シテ居リマスケレドモ、自然サウ云フ
傾ニナテ來ハスマイカト思フデ居リマス、故ニ折角陪審法ヲ
作テ之ヲ圓滿ニ運用シテ行カウトスルニハ、檢事檢事正ニ
サウ云フ我儘ヲサセナイ仕組ヲ拵ヘテ置ク必要ガアラウト思

フ、然ルニ此案ニハ其仕組ガ全ク缺ケテ居リマス爲ニ、何
ナク玉ノ底底ナシト云フ風デ、ト申スノハ陪審法第三條
ニ請求陪審範圍ヲ規定シテ居リマスガ、其請求ハ「長期三
年ヲ超ユル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル事件」ニシテ地方裁
判所ノ管轄ニ屬スルモノニ付被告人ノ請求アリタルトキハ之
ヲ陪審ノ評議ニ付ス」ト書イデアリマス、然ルニ今日如何ナル
事件ガ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルカト云フコトハ、御承知
ノ如ク裁判所構成法ノ十六條ニ規定シテアル、即チ有期ノ
懲役若ハ禁錮、又ハ罰金ニ該ル事件ニ付テ豫審ヲ經ザルモ
ハ區裁判所、豫審ヲ經ルモノハ地方裁判所ノ裁判權ヲ行
ハシムルノデアリマス、而シテ事件ガ豫審ヲ經ベキモノナリヤ
否ヤハ誰ガ規定スルカト云ヘバ、今日檢事局ガ規定シテ居
ル、檢事局ガ豫審ノ必要ナシト決スレバ、事件ハ區裁判所ノ
管轄ニナル、區裁判所ノ管轄ニナレバ、如何ニ被告ガ陪審ヲ
請求シヤウトシテモ到底出來ナイ、如何ニ被告ガ地團駄ヲ
踏ンデモ、陪審ノ恩典ニ浴スルコトガ出來ナイ立前ニナテ
來ル、而シテ事件ヲ區裁判所ニ繼續セシムルカ、地方裁判
所ニ繼續セシムルカト云フ此管轄ヲ決定スル所ノ檢事局ハ
人情ノ上カラ陪審ヲ好マヌ傾向ガアルトスレバ、折角國民
ガ陪審法第三條ニ依テ陪審請求權ヲ與ヘラレナガラ、
其權利ヲ行使シ得ベキ鍵ハ、檢事局ガ握テ居ルコトニナル
ト思フノデアリマス、若シサウ云フコトデアルト致シマスルナ
ラバ、陪審法ノ圓滿ナル運用ハ到底望ミ得ラレナイコトニナ
リマスカラ、此點ガドウモ一大缺陷デアアルヤウニ思フノデ、之
ヲ防ク適當ナ方策ハ無イモノデアリマセウカ、此點ヲ御伺シ
タイト思ヒマス

○林政府委員 御心配ノ點ハ一應御尤ノ節モアルヤウニ
考ヘマスガ、併ナガラ檢事ガ起訴ノ手續ヲスル場合ニ於テ
ハ、勿論法律ノ精神ニ反シナイヤウニヤルト云フコトハ當然
ノ事デアリマスカラ、實際ニ於テサウ云フヤウナ事ハ起ルマイ
ト考ヘマス、殊ニ檢事ハ御承知ノ通り上命下從ノ關係ニ
立テ居ルノデ、檢事正單獨ノ考デ常ニ之ヲ決スル譯デナイ、
檢事長アリ、檢事總長アリ、司法大臣アデ、適當ニ檢事ノ
起訴ヲスルニ付テ準則ヲ與ヘ、又各事件ニ付テ命令指揮ガ
出來ルノデアリマス、陪審法ヲ運用スル上ニ於テ監督權
ノ行使ヲ適當ニシテ、サウ云フヤウナ虞ノナイコトニ致シタイ
ト考ヘテ居リマス、法律ノ規定トシテハ是デ差支ナイモノト
考ヘマス

○鈴木委員 只今ノ御問ハ實ハ司法大臣ニ聽イテ戴キタ
考ヘマス

カントノデアリマス、ト申スノハ司法大臣ガ此方面ノ一番ノ上官ト云フコトニナリマシテ、指揮監督ノ最上級ニ立ッテ居ラレ、極メテ必要ナ事ト思ヒマス、只今ノ御答辯ニ依ル、矢張制度ノ上ニ於テドウモサウ云フ缺陷ヲ御認ニナル御答辯ノヤウニ拜聴致シタ、唯、實際ノ運用ニ於テ指揮監督權ヲ行使シテ、サウ云フ不都合ナ事ノナイヤウニスル、斯ウ云フコトニ過ギナイノデアリマス、若シ當局其人ヲ得ザレバ、此點デハ餘程困タコトニナラウコト思ヒマス、私ガ斯様ナ事ヲ申シマスノハ空論ヲ申スノデアリナ、ドウモ今日檢事局ニ於テ事件ノ管轄ヲ區裁判所ニスルカ、地方裁判所ニスルカト云フコトニ付テハ、甚タ適當ナラザル處置ヲ屢々御見受スルカラ私ハ心配致スノデアリマス、昨年林政府委員ガ御答辯ニナリマシタ一節ニ、陪審法第三條ニ依ル請求陪審ヲ爲シ得ベキ條項ハ、幾ツアルカト云フ鶴澤總明氏ノ質問ニ對シマシテ、刑法ダケニ九十五箇條アルト云フ御答辯デアリマシタ、其中第二條ニ該當スル死刑、又ハ無期ノ懲役、若クハ禁錮ニ該ル事件ト云フモノハ幾ラモ無イノデス、九十五箇條アル中ノ大部分ト云フモノハ區裁判所ニ持ッテ行カウ、地方裁判所ニ持ッテ行カウガ、檢事局ノ勝手次第ト云フ風ニ裁判所ノ構成法ノ立前ニナッテ居ル、而シテ現在ニ於キマズルト、無論檢事同一體デアリマアルカラ、只今林政府委員ガ仰シヤタヤウニ指揮監督權ノ行使デ、ドウニデモナルヤウニ思ハレマステレドモ、事實ニ於テ檢事正ガ總テ起訴ヲ上官ニ相談スル譯デハ無論ナ、滿鐵事件トカ、阿片事件トカト云フヤウナモノハ御相談ナサルカ知レマセヌケレドモ、其他普通ノ事件ト云フモノハ、決シテ一々相談スル譯デハナイ、又サウ云フ相談ヲシテ居ル暇モ恐ラクハ無カラウト思ヒマス、而シテ大部分ハ檢事正ガ上席ノ檢事ト相談ヲシテ、是ハマア豫審ヲ請求シヤウ、是ハ豫審ヲ請求シマイト云フコトヲ決定シテ、管轄ヲ定メテ居ル實狀ニナッテ居ル、而シテ相成ベクハ檢事正ガ自分ノ勢力ノ及ブ範圍ニ於テ、第一審ト第二審ト兩方デシマヒタヒト云フ風ナ考ヲ以テ、此管轄ヲ決メラレテ居ル實例ヲ私ハ幾多實驗致シタノデアリマス、極ク顯著ナ實例ヲ申シマス、陸榮廷ガ名士ノ名前ヲ騙シテ名士ヲ欺イタ事件ガアリマス、是ハ事實上ニ於テモ法律上ニ於テモ比較的複雑ナ事案デアリマシテ、被害者モ各方面ニアツテ、中ニ單純ナ事實デハナイノデアリマス、當然是ハ豫審ヲ請求シテオヤリナナルモノデアルト私ハ信ジテ居リマシタ所ガ、是ハ矢張區裁判所ノ管轄ニナッテ、豫審ヲ經ズニヤッテ居リマス、是ハ檢事正ノ御考デサウ決メテシマツタ、之ニ似寄ッタ事實ガ幾ラモアリマス、殊ニ知能犯ニ於テ近頃ソレガ多イノデアリマス、サウスルトサウ云フ時分ニハ一度區裁判所ノ管轄ニ屬セラレルト、モウドウシテモ陪審ヲ請求スル譯ニ行カナクナル、

デアリマアルカラ折角第三條デ請求陪審ノ權利ヲ國民ニ認メラレテ居リナガラ、ソレヲ實際ニ行使スル鍵ト云フモノハ檢事正ガ握ッテ、サウシテ其檢事正——或ハ檢事局ト申シマスルカ、此檢察ノ任ニ當テ居ル人ハ、人情ノ上カラ云フト陪審ニ掛ケレバ非常ニ骨ガ折レル、骨ガ折レタ上ニ成績ガ惡クナル、其陪審ニ掛ケタ爲ニ特別ノ待遇ガアル譯デナイトナレバ、自然厭ガテ區裁判所ノ方ニ餘計持ッテ行クト云フコトハ、人情已ムヲ得ナイ事ト思ヒマス、決シテ之ヲ咎メテハ相成ラヌ、制度ノ上ニサウナッテ居ルダカラ此穴ヲ塞グ爲ニ何カ適當ナ方法ヲ執ルカ、法文ヲ設クルカ、若シ法文ヲ設クルト云フコトガ出來タコトデアリマスナラバ、其點ニ付キマシテハ司法大臣ガ絶エズ注意ヲシテ、サウ云フ不都合ノナイヤウニスルト云フヤウナコトニデモ御言明ヲ得テ置タカ何カウコニ確カリシタ保障ヲ今日得テ置タコトガ必要タラウト私ハ思ヒマス

○林政府委員 先程ノ御質問ノ續デアリマスカラ私カラ御答致シマスガ、先程私ガ答ヘマシタノハ、制度トシテハ是デハ不完全デアラ、監督權ノ働、實際ニ於テハ差支ナイト云フ意味ニ御聴取ニナッタヤウデアリマスガ、私ハサウ云フ意味デ申シタノデアリマセヌ、制度トシテ是デ差支ナイ、斯ウ云フ意味デアリマス、詰リ檢事ノ職務上ノ關係ガ、判事ノ如ク全ク獨立デアラ、上官ノ指揮命令ニ服シナイト云フヤウナ制度ニナッテ居レバ、或ハ御心配ノヤウナ事ガ起ラヌトモ限ラヌカモ知レマセヌ、併ナガラ上命下從ノ關係ニナルノデアリマスカ、サウ云フヤウナ勝手ノ働ノ出來ナイヤウナ組立ニナッテ居ルノデアリマス、ソレヲ實際ニ於テ差支ガ起ルマイト申シタノデ、要スルニ制度ト申シテモ、單ニ陪審法ノミデ見ル譯ニ行カナイ、汎ク各般ノ關係ヲ總括シテ其制度ノ上カラ見ナケレバナラヌデアリマス、其意味ニ御諒解ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレカラ事件ノ數ノコトデアリマスガ、請求陪審事件ガ九十幾ツアルト申シマシタノハ、法定ノ陪審事件ヲ除外シテノ數デアリマス、法定陪審事件ハ其外デアリマスカ、ソレモ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレカラ檢事ニ於テサウ云フ御心配ノヤウナ、ソスルト云フコトハ斷ジテ無イ思ヒマスガ、併ナガラ何カ實際ニサウ云フヤウナ傾向デモ萬一アリマスレバ、之ヲ矯メヤウナ方法ヲ又十分ニ考慮シテ、適當ニシテ行カナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、先程申シタノハ今日ノ所デアリ御尋ニナッタヤウナ方法ヲ考ヘテ居ラナイ、斯ウ云フ意味デアリマスカラソレモ御諒解置テ願ヒマス

○鈴木委員 其點ハ運用上極メテ大切ダト思ヒマスルカラ尙ホ私ノ質問ノ趣旨ヲ司法大臣ニモ御紹介ヲ願ヒマシテ適當ニ處置ヲ執ラシコトヲ望ミマス

○林政府委員 承知致シマシタ

○鈴木委員 ソレカラ大體ノ質問ハモウ本年ハ盡キテ居ルヤウデゴザイマスガ、唯、解釋資料ヲ少シク速記録ニ留メテ置キタイト思ヒマス、若シ既ニ答辯ガ終ラ居ル事ハ、サウ仰シヤッテ下サレバ私ハ止メマフカラ左權御承知ヲ願ヒマス、第一條ノ規定ガゴザイマス、裁判所ハ本法ノ定ムル所ニ依リ刑事事件ニ付陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲スコトヲ得「デアリマス、此條文ト新刑事訴訟法ノ第三百三十六條トノ關係デアリマス、是ハ昨日山岡政府委員トモ非公式ニ御話ヲ致シタノデアリマス、陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲スコトハ、新刑事訴訟法ニ於テ規定ニナル譯デアリマス、認定ハ證據ニ依ルト云フ大原則ノ例外規定ニナル譯デアリマス、ト申スト少シク簡單デアリマス、刑事訴訟法ニ於テハ事實ノ認定ハ證據ニ依ルトシテ、所謂證據裁判、然ルニ陪審裁判ニ於テハ證據ノ代リニ事實ノ判斷ヲ陪審ノ評議ニ付シテ、ソレニ依テ判斷スルト云フコトニ規定ノ上デハ見エルトデアリマス、詰リ證據ニ依ラナイ判斷ヲスルヤウナ趣旨ニモ取レル、是ハ質問ガアリマシタカ

○林政府委員 其點ハマダ質問ガアリマセヌカラ御答致シマス刑事訴訟ノ三百三十六條モ、勿論陪審ノ評議ニ付スル手續ニモ適用ガアリマス、陪審事件ナルガ爲ニ證據ニ依ラズシテ事實ヲ認定スルト云フコトハアリマセヌ、ソコデ陪審モ證據ニ依テ事實ノ判斷ヲスルノデアリマス、裁判官モ證據ニ依テ事實ノ判斷ヲスルノデアリマス、一致シタキニ判決ガ下ル、斯ウ云フ事ニナッテ居リマス、其趣意ハ陪審法ノ七十七條ニ第一次ノ辯論ガ終リマシタ後ニ、裁判長ハ其公判ニ於テ調ベラレタ證據ノ要領ヲ說明シタスウ云フ規定ガアリマス、其證據ニ基イテ陪審ガ評議ヲスル、斯ウ云フ事ニナリマス、之ニ照應スル規定ハ第四百六條乙、裁判長證據トシテ說明シタルモノハ法律上證據ト爲スコトヲ得サルモノナルトキ、是ガ絕對の上告ノ理由トシテ書イテアル、詰リ陪審ノ評議ヲスルニハ證據ニ依テ事實ノ判斷ヲスル、サウシテ之ヲ答申スル斯ウ云フ事ニナリマス、裁判官モ亦同様デアリマス、唯、判決書ニハ普通手續ノ如ク證據關係ヲ說明スル必要ガ無イ、陪審ノ評議ニ付シテ認定シタノデアリスウ云フ事ヲ書ケバ宜シイト云フノデ、判決ノ形式ハ變リマスガ、證據ニ依テ認定スルト云フコトハ少シモ變リマセヌ

○鈴木委員 御說明ハ洵ニ巧妙デアリマスケレドモ、證據ノ事ヲ裁決ニ書カナケレバ、證據ニ依テ果シテ判斷シタカドウカト云フコトガ分ラヌ譯デス、殊ニ陪審員ニ對シテ證據ノ要領ヲ說明致シマシテモ、陪審員ガ事實ノ有無ニ關スル意見ヲ述ベル時分ニハ、證據ヲ頭ニ持ッテ述ベル人モアリマセウシ、持タズニ述ベル人モアリマセウ、サウ云フ時分ニハ、マルデ證據ト云フモノハ餘リ有力ノ働ヲシナイノ様ニ見エル、

○鈴木委員 宜シウゴザイマス——是ハ昨年御答辯ヲ得タカラ、私モ安心シテ居リマスガ、本年モ定メテ違フ御答辯デハナカラウト思ヒマスガ、公判期日ニ證據調ノ請求ガ出來マスと思ヒマスガ……

○林政府委員 ソレハ刑事訴訟ノ原則ニ依テ出來マス

○鈴木委員 ソレカラ第七十條ノ二項デアリマスガ、陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受テ、被告人、證人、鑑定人等ノ訊問ガ出來ルコトニテ居リマスガ、是ハ實際ノ運用ニ當テ少シ困ルコトガ出來ハシナイカト思ヒマス、丁度岡野サング前ニ行政裁判所ノ長官デ裁判長ヲ爲サタノデアリマスガ、司法裁判所ニ於テハ陪審判事ハ口ヲ出サス、裁判長ダケガ之ヲスルノデアリマス、行政裁判所ニ於テハ總テノ者ガ口ヲ利ク、是ハ好イ事デアル、斯クアリタイト思ヒマスガ、之ニハ非常ニ審理ガ長延クノデアリマス、ソレニハ辯護士ガ長延カセルカラ餘リ苦痛ハ申サレマセケレドモ、時トシテ前ニ聽イタコト、反對ノ答辯ガ出テ來マセバ、紛議スルコトニナリマス、陪審員ハ皆オトナシ人バカリガ出來ルト云フ譯ニハ行カス、丁度衆議院ノ本會議議ニ於キマシテモ、能ク議事進行ニ關シテ、佐々木君ヤ田淵君ガ屢、發言スルヤウニ、サウ云フヤウナ元氣ナ人が陪審員ノ中ニ一人ヤ二人ハ出ルデアラウト思ヒマス、サウ云フ人が無暗ニ被告人證人鑑定人等ヲ訊問スルト云フト、手續ノ上ニ於テ紛糾ガ出ハシナイカト云フ心配ガアリマス、其點ハドウデアリマスカ

○林政府委員 此法案ニ於テハ裁判長ノ許可ガナケレバ訊問ガ出來ナイコトニテ居リマス、裁判長ノ許可ヲ得テ訊問スルノデアリマスカラ、若シサウ云フ人がアレバ十分防グコトカ出來ルト考ヘマス

○鈴木委員 ソウスト「許可」ト云フ文字カ疑問ニナッテ來ル、是ハ辯護士ニ對シテ「許可」ト云フ文字ヲ使テ居ル、一度許可ヲ得レバ許可ヲ受ケズトモ、アトハ勝手タルベシト云フヤウニ昨年辯護士ノ證人訊問ニ付テハ承テ、裁判長ニ頼シテ訊イテ貰フノダトスレバ制御スルコトガ出來マスケレドモ、一度訊コトヲ許セバ、訊イテ居ル途中デ其質問ハ不必要ダト言テ一々差止メル譯ニ行クマイト思フ、又サウ云フ趣旨ニ此「許可」ト云フ文字ヲ私ハ解釋致シテ居リマスガ……

○林政府委員 一旦許可ヲ與ヘレバ、モウドンナ事ヲ訊イテモ勝手ニ訊カシテ置カナケレバナラヌト云フヤウナコトハアルマイト考ヘマスノデ、必要デナイ間ヲ發スルヤウナ場合ニ於テハ、許可ヲ取消スコトモ出來マス、又之ヲ制限スルコトモ出來ルト思ヒマス、ソレデアリマスカラ、許可ヲ一旦與ヘル結果、先程御心配ノヤウナ紛糾ヲ起スト云フヤウナコトハアルマイト思ヒマス

○鈴木委員 ソレカラ先ハ議論デアリマスカラ是デ止メマス、ソレカラ「說示」ノ解釋ハ隨分綿密ニナサタ事デアラウト思ヒマスガ、委員長如何デゴザイマスカ

○鶴澤委員長 「說示」ハ今回ハ餘リ質問ガアリマセズデシタ

○鈴木委員 詰リ、インストラクショント申シマスガ、此範圍ニ付テ昨年ハ馬場法制局長官ノ御答辯ト林政府委員ノ御答辯トガ、少シク違フテ居ルヤウデシタガ……

○林政府委員 イヤ違ハヌト思ヒマス

○鈴木委員 サウスルト甚ダ恐縮デアリマスガ、說示ノ範圍ニ付テモ一度アナタノ御考ヲ承ル譯ニ行キマセヌカ

○林政府委員 ドウ云フ程度ニ御話シタラ宜シイカ一寸御尋ノ趣旨ガ分リ兼ねマスケレドモ、七十七條ノ意味ハ第一次ノ辯論——即チ犯罪構成要素ニ關スル問題ニ付テハ辯論ガ終リマス、裁判長ガ犯罪構成ニ關スル範圍ニ於テ、先ヅ法律上ノ必要ナル關係ヲ陪審員ニ說示ス、殺人罪ハ殺ス意思デ人ヲ殺シタ、サウ云フ場合ニ成立スルノデアルト云フヤウナ、犯罪ノ構成ニ關スル大體ノ法律上ノ要點ヲ陪審員ノ頭ニ入レル、是ガ第一、ソレカラ其次ニ其事件ニ付テドウ云フ點ガ詰リ評議シナケレバナラヌ問題デアルカ、事實上ノ問題ヲ說キ明ス、次ニ陪審員ノ面前ニ於テ調ベマシタ證據ノ適法ナルモノ總テニ付テ、其要ヲ摘シテ陪審員ニ之ヲ說キ明ス、斯ウ云フ事ヲ總括シテ說示ト申スデアリマス、サウシテ犯罪構成事實ノ有無ニ付テ評議シテ答申セヨ、斯ウ云フ命令ヲ出ス、唯、說示スル場合ニ於テ「證據ノ信否及罪責ノ有無」ニ關シテ意見ヲ表示スルコトヲ得ヌト云フ制限ヲ設ケマシテ、證據關係ヲ説明スルコトニ、此證人ノ證言ハ是々ノ理由ガアルカラ、ドウモ信用ガ出來ヌヤウデアアル、或ハ此者ノ證言ハ十分信用ガ出來ルト云フヤウナ、信憑力ニ關スル裁判所ノ意見ヲ表示スルコトハイケン、況ヤ罪ノ有無ニ關スル意見ト云フモノハ毛頭表示スルコトハ出來ナイ、斯ウ云フ制限ガアリマス、此制限ニ觸レザル範圍ニ於テ、先程申シタ三ツノ事項ヲ素人タル陪審員ニ能ク吞込メルヤウニ話スル、斯ウ云フ事ニナッテ居リマス

○鈴木委員 サウスルト英法ニ規定シテアリマスヤウナ、ギリチリー、オア、ナツト、ギリチリート云フヤウナ質問ヲ發スルコトハ出來ナイト云フ意味デスカ

○林政府委員 ソレハ出來ナイ趣意デアリマス

○鈴木委員 獨逸デハ此時分ニ「シユルデツヒ」ト云フ言葉ヲ使フヤウデスカ、是モ出來ナイコトニナリマスカ

○林政府委員 ソレモ出來マセヌ

○鈴木委員 犯罪構成事實ノ中ニハ、犯罪加重事實ヲモ含ム趣意デゴザイマスカ

○林政府委員 犯罪加重事實ト云フノハ一寸意味ガ私ニ分リ兼ねマスガ、犯罪ノ成否ニ關セズシテ、單ニ刑ノ輕重ニ關スル事實ナラバ這入りマセヌ

○鈴木委員 例ヲ舉ゲテ申シマス、犯罪ノ構成事實ハハキリ致シテ居ル、ソレカラ加重事實ト云ヘバ、瀆職罪ノ中賄賂罪ニ付テハ、由テ不正ヲ爲シタカ爲サヌカト云フ事、是ハ無論此事實ニ這入ラヌ譯デスカ

○林政府委員 各犯罪ニ付テ論ジマスト云フト、或事實ガ一ツノ犯罪ノ體樣ヲ爲ス事實デアルカ、或ハ單ニ刑ノ加重ノミニ關スル事實デアルカ、是ハドウモ刑法ノ解釋トシテ問題ニナルコトガアラウト思ヒマス、併ナガラ今仰セニサタヤウナ事ハ、私ノ考トシテハ單ニ加重ノ事實デナクシテ、一ツノ犯罪ノ體樣ヲ爲スモノデアルヤウニ考ヘマス

○鈴木委員 被告ガ公務員ナリヤ否ヤト云フトコトガ犯罪ノ要素ニナル場合ガゴザイマスガ、此時分ドウナリマスカ

○林政府委員 ソレハ無論犯罪構成ノ要素タル事實デアリマスカラ、陪審員ノ評議スベキ事項ニ入ルノデアリマス

○鈴木委員 サウ云フ事トスルト、ソレハ非常ナ法律論ノヤウニナリマスガ、例ヘバ司法省ノ囑託等ガ公務員ナリヤ否ヤト云フトコトハ、實ハ事實問題ニ非ズシテ、法律論ノ中デモ隨分ムカシイ法律論デ、一審二審ノ裁判所デハヨウ決メズ、大審院マデ行カナケレバ決メルコトガ出來ナイヤウナムツカシイ法律論ニナルコトガ多イノデアリマスガ、ソレハ矢張陪審員ニ聽キマスカ

○林政府委員 苟モ法律問題トナレバ陪審員ニハ聽キマセヌガ、事實問題デアアル限りハ陪審員ニ聽タノデアリマス、或ハ場合ニ依テハ事實問題或ハ法律問題ノ界ガ、甚ダ見分ケノ困難ナコトカアラウト思ヒマス、是ハ各場合ニ於テ決スルヨリ外途ガナイト思ヒマス

○鈴木委員 只今私ガ舉ゲタ公務員ナリヤ否ヤノ問題ハ直ニ起テ來ル問題デアアル、而シテ極メテ是ハ分界ガムツカシイ、事實問題デアルト云ヘバ言ヘマスケレドモ、兎ニ角法律ヲ離レテノ事實問題デアハナイ、是ハ非常ニムツカシイ、事デアラウト思ヒマスシ、連モ陪審員ナド決メラレルコトデハナイト思フ、ソレヲ各場合ニ就テドウ御判斷ナサイマスガ、今迄通りニ各裁判所ガ照會ヲシテ、ソレニ對シテ檢事局ナリガ回答スルト云フヤウナ方式ニナリマスカ

○林政府委員 ドウモ私ハサウムツカシイ問題デナカラウト思フ、例ヘバ官廳ノ囑託ガ公務員ニ該ルカドウカト云フトハ從來問題デアリタガ、陪審員ニ出スノハ囑託デアアルカドウカト云フ事實デ宜シイ、ソレガ法律上ノ公務員ト云ヘル別ニムツカシイ問題ガ起ルトハ考ヘテ居リマセヌ

○鈴木委員 只今ノ御答辯ハ最初ノト少シ違フヤウデスガ、囑託ナリヤ否ヤト云フコトハ聴クマデモナイ事ダラウト思フ、一番最初ニ被告人ニ聴クノデアリマスカラ、即チソレガ犯罪ノ構成要素アル場合ニ、陪審員ガ評議スベキ事柄ニ入ルノデス

○山岡政府委員 此關係ハ一言申上ゲテ置キタイト思フノデスガ、七十六條ノ犯罪ノ構成要素、七十一條以下ノ陪審ノ判決スベキ事ハ構成ノ事實、斯ウ云フ事ニナラ居リマス、申上ゲルマデモナク構成要素ト云フコトニナリマス、多少抽象的ニ法律的ニ、多少單純ノ構成事實ト云フヨリモ廣ク見テ居ルノデアリマス、故ニ七十六條ノ方デ行キマス、事實ノ問題モ法律ノ問題モ一切ヲ檢事辯護人トシテ論ズベキモノデアル、七十七條ノ方ニ行キマス、其事實ノ存在スルヤ否ヤ、斯ウ云フコトヲ聴クノデアリマス、ナゼサウ云フコトニナルカト云フト、素人デ法律ノ智識ガ無いノデア

ルカラ、茲ニ犯罪ヲ構成スル實際ノ事實ガアツカドウカ、斯ウ云フコトヲ言ハセル譯デアリマス、所ガ一言特ニ附加ヘテ置カナレバナラヌ事ハ、其事實タルヤ刑法ノ犯罪關係デ、其法律關係ヲ通ジテ見タ事實ナノデス、法律關係ヲ通ジテ其事實ヲ觀察スルノデアリマス、ソレ故ニ裁判長ハ法律關係ヲ先ヅ目ノ前ニ一ツ置イテ、ソシテ通ジテ事實ヲ見ル、故ニ裁判長ガ說示シナレバ、陪審員ニハ何ノ事實ガ有ルヤ否ヤト云フコトヲ考ヘラレマセヌ、故ニ裁判長ノ觀察ニハ、先ヅ第一ニ法律上ノ犯罪ヲ構成スル關係ヲ眼中ニ置イテ、ソレヲ通ジテ必要ナ事柄ヲ聴イテ行クノデアリマス、故ニ其構成關係ニハ罪トナル關係ト加重關係トアル、罪トナル構成關係ノ方ダケニ付テ、其法律關係ヲ通ジテ、斯ウ云フ事ガ有ルカ無イカト云フ風ニ具體的ニ聴イテ行クコトニナルノデアリマス、ソレ故ニ只今ノ鈴木君ノ御問ノ構成ノ身分ノ關係ノ如キ、法律關係ノ大分重イ場合モアリ、重クナイ場合、例

ヘバ男子デアルトカ女子デアルトカ云フ關係ガアル、要スルニ法律關係ヲ一ツ離シテ、向フハ法律關係ヲ作り上ゲル所ノ事實關係ヲ見レバ宜シイノデアリマス、サウ云フ意味ニ於テ此構成事實ヲ聴クノデアリマス

○鈴木委員 宜シウゴザイマス、モウ一ツ參考ノ爲ニ伺ヒテ質問ヲ打切りマス、日本ニ於テハ此陪審法ハ主問ト補問ニ分レテ居ルノデアリマスガ、御承知ノ通り獨逸法ニハ「ネーベ」ンフラーデト云フモノガアリマス、是ハ主トシテ情狀ニ關スル設問デアリマス、是ハ日本ノ刑法ガ裁量範圍ガ廣イカラ、ネーベンフラーデヲ用ルル必要ハナイ、斯ウ云フ御答辯ノヤウニ承ツタ、所ガ私共ノ考デハ、素人ガ裁判ニ關與スルノデアリマスカラ、果シテ甲乙ヲ殺シタルヤ否ヤト云フ事實ノ認定ニ付テハ、寧ろハ素人ノ方ガ正確ニ觀察シ得ルノデアリナ

カト思フ節ガ多イ、而シテ素人ノ最も尙ブベキ所ハ、所謂社會的常識デアリマスカラ、寧ろ情狀ニ付テ聴キベキモノガ多イデハナイカ、其點カラ行クト寧ろ情狀ノ方ヲ素人ニ聴ク方ガ、時弊ニ的中セルモノデハナイカト思フ、私ハ決シテ陪審法ノ根柢ヲ動カス考ヲ持ツテ居ルノデアリナシ、何トナクサウ云フ考ガスル、事實認定ノ方ハ裁判官ノ方ガ巧ク、情狀ノ方ハ裁判官ノ方ガ暗イト云フノガ當テ居ルノデアリナシ、ト思フ、無論政府デハサウ云フ御考デナイカラ、斯ウ云フ立法ヲ爲スノデアラウト思ヒマスガ、其點ハ經驗上如何デスカ

○林政府委員 只今ノ問題ハ昨年來度々承ルノデアリマスガ、日本ノ刑法ノ如キ刑ノ範圍ガ廣イ國ニ於テ「ネーベン」フラーデヲ用ルルト云フコトニナリマス、結局ハ刑期ニ關スル事マデモ陪審員ノ意見ヲ問フコトニナラナレバ徹底シナイコトニナル、殺人罪ニ致シマシテモ上ハ死刑ヨリ下ハ懲役三年迄、是ダケノ範圍ガ法定刑トシテ決テ居ル、其以下ニ下グベキ情狀デアアルカドウカト云フコトハ、是ハ顯著ナ情狀デスカラ誰デモ間違ヘヤウガナイ、サウ云フ點ニ付テ特ニ陪審員ノ意見ヲ聴カナレバナラヌト云フコトハ實際ニ於テアリマセヌ、故ニ情狀ガ重イカ輕イカト云フコトヲ陪審ノ評議ニ掛ケルツレバ、法定刑ノ範圍内ニ於テドノ邊ガ宜イカト云フコトマデ聴カナレバ徹底シナイコトニナル併シ刑期ニ付テ素人タル陪審員ノ意見ヲ聴クコトハ、私ノ知ル所デハ世界ノ立法例ニアリマセヌ、無論是ハ適當デナカラウト考ヘテ居リマス、此案ニ於テハサウ云フ點モ無論理由ニナラ

居リマスガ、又一面ニ於テハ犯罪構成事實ノ有無ト云フコトガ、事件ニ付テ一番大切ナ問題デアアル、情狀問題ハソレヨリモ輕イコトハ疑ナシ、ソコデ陪審事件ノ範圍ヲ相當ニ限定シ、又陪審員ノ權限ヲ相當ニ限定スルト云フ此法案ノ主義カラ、一番重要ニシテ最も被告人ニ取テ利害關係ノ大ナル問題、之ヲ陪審ニ掛ケルノデアリマス

○鈴木委員 私ノ質問ハ是デ了ヘマスガ、元來陪審贊成論者ナンデアリマスカラ、成ベク贊成ニ有リナル材料ヲ集メタイト思フ、テ居リマスガ、昨年上皇君ガ反對論ヲ爲サレテ、斯ウ云フ事デ陪審ガ無罪ニシタ、斯ウ云フ事件モ無罪ニシタ殊ニ前ノ佛蘭西ノ大藏大臣「カイヨ」氏ノ夫人ガ、新聞記者ヲ殺シタト云フ事案ニ付テモ無罪ニシタト言テ盛ニ非難サレタノデ、其例ハ佛蘭西デアル、佛蘭西ノ陪審法ノ立前ト日本ノ陪審法ト異テ居ル、ア、云フ例ヲ今年モ盛ニ出サレルト云フデアラウト存ジマスガ、就テハ佛蘭西ノ陪審法ト日本ノ陪審法ガ違フト云フ點ヲ最も簡潔ニ茲ニ御述下サルコトガ出來ルナラバ、他ノ反對論ヲ打壞スニ更ニ宜シイデアラウト思ヒマス

○林政府委員 佛蘭西ノ陪審手續ト此法案ニ定メタ陪審手續トハ、細カイ點ニ付テハ澤山違ヒマスガ、主ナル點ハ佛蘭西ノ陪審手續ニ於テハ、此法案ニ定メタ如キ說示ト云フコトヲ致シマセヌ、ソレデアリマスカラシテ陪審員ト云フモノガ、十分ニ事件ノ關係、ソレカラ罪證等ヲ了解シテ、サウシテ適當ナ判斷ヲスルト云フ方面カラ考ヘマスルト至ラヌ點ガアル、其點ガ日本ノ此法案トハ違フノデアリマス、殊ニ陪審ノ結果ニ於テ決定權ヲ持ツテ居ル裁判所ガ、其判斷ガ間違テ居ルト思フ、モ如何トモ致方ガナイ、斯ウ云フ點デアアル、ソコガ佛蘭西ノミナラヌ、大陸ノ陪審制度ノ一ツノ弊トシテ一般ニ認メラレテ居ル、其點ヲ十分ニ考慮シマシテ、此法案ニ於テハ陪審ノ評議ト云フモノハ事實ヲ決定スルト云フコトハナイ、裁判所ガ陪審ノ評議ノ結果ヲ相當ト認レバ之ニ依テ判決ヲスル、相當ト認メナレバ判決シナイ、裁判所ノ判斷ト陪審ノ評議ト一致シタモノニ依テ裁判ガ下ルト云フコトニナラ居リマス、此點ガ最も違フ點デアアル、ソレデアリマスカラ此法案ニ於テハ、今例ニ舉ゲラレマシヤウナ事ハ斷ジテ起ル虞ガナイ、サウ云フ次第デアリマスカラ、大陸ニ於テ弊ガアリマシテモ、此法案ニ於テハサウ云フ弊ハ除クコトガ出來ル、又サウ云フ弊ヲ除カント欲シテ色々苦心シテ立案シタ次第デアリマス、ソレ等ニ付テハ心配ハ毫モアルマイト考ヘテ居リマス

○鈴木委員 反對論者ガ一番金科玉條トシテ引ク例ハ「カイヨ」夫人ノ例デ「マタン」記者ヲ殺シタト云フコトガ白晝ニ於テヤツカカ動カスコトハ出來ナイ、ソレヲ無罪ニシテ居ル、殺人ノ事實アリタリト云フコトハ多分認メタシタラウト思ヒマスガ、其他ノ點ニ於テ無罪ニシタダラウト思ヒマスガ、佛蘭西ノドノ條文ニ依ツタカ、ソレカラ嬰兒殺ノ如キモ殺シタノハ分カデ居ル、ソレヲ無罪ニシタ、ソレハ日本ノ立前ト違フカラサウ云フ事ガ出來ルト思ヒマスガ

○林政府委員 佛蘭西ノ法制ニ於テハ、陪審ノ評議ガ被告人ニ不利益ニ歸シタ場合ニ於テハ、次ノ新シイ陪審裁判所デアリ直スコトガアリマスガ、被告人ノ利益ニ陪審ノ評議ガナク場合ニハ動カスコトハ出來ナイ、ソレデアリマスカラ例ニ舉ゲラレタ場合ハ、ドウ云フ風ニ陪審ガ評議シタカ知レマセヌガ、結局被告人ノ犯罪事實ガ無イト云フ、無罪ト云フヤウナ陪審ガ評議シマス、之ヲ覆ス途ガ全然無いノデアリマス、ソレガ歐羅巴ノ陪審手續ノ缺點ダラウト思ヒマス、此法案ハソレ等ノ點ニ付テ弊ノ無いヤウニ十分ニ出來テ居ル積リデアリマス

○鈴木委員 ドウモ只今ノ林政府委員ノ御答ノ通りデアアルマイト思ヒマス「カイヨ」夫人ガ無罪ニナッタハ、陪審法ノ七十九條ノ四項「犯罪ノ成立ヲ阻止スル所ノ原因トナル

ベキ事實ノ有無之ヲ評議シテ、或ハ正當防衛アルトカ云フヤウナコトヲ決定シテ、無罪ニシタデハナイカト私ハ想像シテ居ルノデスガ、併シ御取調ガナレバ是ハ又別ニ調べる方法ガアリマスカラ——山岡サンア、云フ事件ノ何ハ御存ジアリマセヌカ——ソレナラバ宜シウゴザイマス

○鶴澤委員長 一寸鈴木サンニ御尋シマスガ、佛蘭西ノ輿論ガノ判決ヲ不當トシテ居ルノデスカ、正當トシテ居ルノデスカ

○鈴木委員 ソレハ聞キマセヌ

○鶴澤委員長 私共ノ聞イテ居ル所デハ、輿論ガノ判決ヲ不當トシタト云フコトハ聞カナイ、又佛蘭西ノ刑法學者モサウ云フ論ハ別ニ言フテ居ラナイ

○横山(金)委員 私タタ一ツ留保シテ置キマシタガ、今質問ハ止メマスと言フ後デ、鈴木君ガ御尋ニナツタ點ガ眼目デアツノメ、我國ノ陪審法ガ歐米先進國ノ模倣ト言ヒマス語弊ガアリマスガ、何トシテモ歐米先進國ヲ手本ニ取ツテ、我國ノ國情ニ照シテアルト云フノガ本案アルト思ヒマス、サウナリマスルト、ドウシテモ此御手本ヲ標準トシテ御尋フスルノガ、番捷徑アルト考ヘルノデアリマスガ——昨日デアリマシタカ、林政府委員ヨリ高柳君ノ問ニ對シテ、本案ノ第一條ト云フモノト七十幾條ハ、陪審員ノ事實ノ認定ニ依テ裁判所ヲ屬東シナイト云フコトハ、憲法違反ト云フコトヲ避ケル意味モ含シテ居ラナイコトハナイガ、憲法違反論ヲ聞ニ東ネテ置イテ歐米先進國ノ實例ニ依ルト、事實ノ認定ニ依テ、裁判所ヲ屬東シタ結果多クノ弊害ヲ生ジタコトヲ認メタノデ、此點ヲ緩和シテ本案ノ如ク定メルト云フコトガ、蓋シ弊害ヲ矯正シ、併セテ實益ヲ發揮スルコトガ出來ルト思ウタノデアルト斯ウ云フ御答デ、又今鈴木サシノ御答デ稍々了解シマシタガ、竿頭一步ヲ進メテ御尋シタイノハ、陪審員ノ認定ニ依テ裁判所ヲ屬東スル結果、幾多ノ弊害ガ生ジタト云フコトハ具體的ニハ煩雜デアリマセウガ、抽象的ニハドウ云フ實例ニ接セラレタノデアリマスガ、我國ノ法文ハ事實認定ニ依テ裁判所ヲ屬東シナイト云フコトハ或ハ創作カモ知レヌガ、其方面ハ姑ク措キマシテ、實例ノアル方面カラ屬東シタ爲ニ是タケノ弊害ガ生ジタカラ、ソレハ採ラナカッタノデアアル、此實例ニハ屢々接セラレタ事柄ガアルニ違ヒナイ、ドウカ此實例ノ主ナルモノヲ御指摘ヲ願ヒタイ、尙ホ此我國ニ起訴陪審ノ採用サレナイト云フ準備ニ至リマシテモ、林政府委員ヨリ丁寧深切ニ御示シガアツテ了解シテ居ルノデアリマスガ、此起訴陪審ニ付キマシテハ尙ホ實例ノ方面ニ於テ、何カ御調ニナツタモノガアリマスレバ、其大要ヲ御示シテ願ヒマス

○林政府委員 實例ト申シマス日本ニハアリマセヌカラ、西洋ノ實例ト云フコトニナルノデアリマセウガ、私共ガサウ云フ弊ヲ外國ノ陪審制度ニアルト云フコトヲ認メテ居リマスノハ、是其陪審ニ關スル色々ノ書物、或ハ其刑事訴訟ノ改正事業ガ隨分諸國ニ起テ居リマシテ、其委員會ニ出テ居ル議論ト云フヤウナモノヲ讀ンデ見マス、サウ云フ點ニ於テ此弊ガアルト云フコトヲ盛ニ書イテ居リマス、ソレデ私共ハ其弊ガアルト云フコトヲ信ジテ居リマス、然ラバ何時ノ何々事件ニ於テドウ云フ結果ガアツタカト云フコトハ、只今此所ニハ御答スルダケノ材料ハゴザイマセヌ

○鶴澤委員長 今ノ實例デスガ、私ハ政府委員デモナシ、政府委員ノ代理ヲシテ居ルノデモアリマセヌガ「ミンステルベルヒ」ノ書イタ陪審——是ハ昨年モ此所ニ配タト思ヒマスガ、陪審官ノ審理、ソレカラモウ一ツハ亞米利加ノ實例ヲ引イテ、不眞實ナル自白ト云フ點ニ付テマスガ、ドウシテモ裁判官カラ見レバ此自白ハ眞實デナイノヲ、陪審官ガ眞實ニ見タ其爲ニ有名人ナル「ブーナン」殺ト云フノガアル、裁判官ガ有罪ニシタクナイノアルガ、陪審官ガ有罪ニシタ、所ガ數年經テカラ殺シタト云フ本人ガ歸テ來タ、ソレデ是ハドウシテモ此自白ノ問題ト對シテ陪審官ノ決定ノ方法ガ、不適當ナコトデアラダナカラウカト云フコトガ公表サレテ居ル、ソレデ恐クハ法制會議會ナドデハ、ソレ等ノモノモ材料ノ一ツニナツタウカト思ヒマスカラ、御參考マデニ申シテ置キマス

○横山(金)委員 只今ノ說ヲ承リマスルト、或ハ書物ノ上ニ、或ハ委員會ノ速記録等ノ上ニ弊害ノ事實ヲ散見シテ居ルガ、其實例ヲ舉ゲル由ナイト云フコトヲ承ツタノデアリマス、凡ソ物ニハ何事ニモ弊ノ伴フト云フコトハ、是ハ言フマデモナイ事デアリマス、其弊害ト云フモノガ堆積シテ、如何ニモ之ニ堪ヘナイト云フ時ニ至ツテ、始メテ此法制ノ改正ナドガ起テ來ラウト私ハ思フ、年久シク歐米各國ニ於テ陪審法ガ行ハレテ、中ニハ弊ガアルト唱ヘル人モアリ、今日尙且ソ其法制ヲ改メズ行テ參テ居ルト云フコトノ事實カラ歸納的ニ考ヘレバ、必シモソレヲ更ヘナケレバナラヌト云フ程ニ弊ガ積リ積テ居ルト認メラレナイノデアリマス、其點マデ御調ニナツタノデアリマスガ

○林政府委員 歐羅巴デハ御承知ノ通り多年陪審制度ヲ各國採用シテ來タノデアリマスガ、段々弊ガアルト云フノデ、何トカ他ニ方法ガアルマイカト云フコトヲ隨分攻究サレテ居リマス、其一ノ現レガ獨逸發明サレマシタ參審制度「シヨッフェン」デリヒテ詰リアレハ素人タル陪審員ニ事實ノ決定權ヲ與ヘナイ、素人タル陪審員トソレカラ專門家デアル裁判官トガ一ノ部ヲ構成シマシテ、裁判官一人ニ素人二人ト云フヤウナ組合セデ部ヲ構成シテ、ソコデ問題ヲ決スル、斯ウ云フヤウナコトニ新シイ制度ガ出來マシタ、ソレカラ諾威ナドモ獨逸ニ倣テ採用シテ居リマスガ、近年獨逸ニ於

テハ參審制度ノ方ガ陪審制度ヨリ宜シイト云フノデ、參審論ト云フモノハ非常ニ熾ニナツテ居ル、御承知ノ通り獨逸デハ普通ノ陪審ノ手續ノ事件ト、全ク專門ノ裁判官ノミガヤル事件ト、ソレカラ參審制度ト三ツノ手續ニ分レテ居リマス近來ノ傾向デハ普通ノ陪審手續ハ不可デ、總テ參審デヤラウト云フヤウナコトガ、學者ノ間ニモ實際家ノ間ニモ唱ヘラレテ居リマス、最近ニ獨逸ノ司法大臣ガ他デ演說シタノニモ、參審制度デナケレバナラヌト云フコトヲ申シテ居ル次第デアリマス、此弊ヲ認メテ何トカ適當ナ方法ヲ講ジタイト云フヤウナコトハ、一般ニ攻究サレテ居ル事實デアリマス、其點ダケ申上ゲテ置キマス

○横山(金)委員 サウスルト今ノ御説明ノ御趣旨ニ依リマスレバ、獨逸ノ參審制度ト云フモノガ出來テ、以前ヨリカ非常ニ優タ成績ガ舉ゲラレタト云フ事柄ハ、別ニ其統計等ニ依テ御調ニナツタト云フノデナイノデスカ、唯、一般ノ輿論ガサウ肯定シテ居ルト云フノデスカ

○鶴澤委員長 是ハ私ノ知ツタ所デハ、昨年ノ獨逸ノ議會デ、ドウシテモ此素人ガ裁判ニ參加スル必要ハ倍々認メラレテ居ルト云フコトデ改正案ガ出テ、從來ノ參審制度ガ判事一人デアツタノヲ二人ニシテ、小參審ノ外ニ大參審ト云フモノヲ拵ヘテ其法案ガ通過シタ、ソレデモ陪審ヲ廢メテ居ルノデナイ、其弊害ノ部分ヲ此方デ救フト云フコトニナツテ居ル

○林政府委員 一寸横山君ノ御尋ニ對シテ御答シマスガ、先程申シマシタヤウニ、獨逸ニ於テハ普通ノ陪審手續ト云フモノハ非常ニ弊ガアル、ドウシテモ此參審制度ガ宜シイト云フ輿論ニナツテ居ルノデアリマス、千九百二十二年九月二十二日獨逸ノ司法大臣「ラードブルフ」ト云フ人ガ、社會民主黨ノ總會デ演說シタ一節ガアリマス、之ニモ頻ニ其事ヲ論ジテ居リマス、從來ノ裁判制度ハ幾多ノ缺陷ガアル、サウシテ國民ノ信賴ヲ維グニ由ガナイ、根本的ニ之ヲ改メルニハ、刑事裁判所ノ審判ニハ、人民ヨリ選出シタ陪審員ト職業的判事ト、共ニ一團トナツテ審判ヲサセナケレバイケナイ、ソコデ之ニ關スル法律案ハ既ニ脱稿シタカラ、本省ニ於テハ成ベク早く之ヲ實施シタイト考ヘテ居ルト云フコトヲ演說ニ申シテ居リマス次第デアリマス、大體サウ云フ風ナ空氣ガ滿チテ居ルト云フコトハ、之ニ依テ推測ガ出來ルト考ヘマス、其事ヲ一寸申シテ置キマス

○鶴澤委員長 私ハ最後ニ特別陪審ノ事ハ本案ヲ出ス前ニ於テ御考ニナツテ居ルト思ヒマスガ、ソレハ採用シナイコトニナツテ居リマスガ

○林政府委員 左様デアリマス

○鶴澤委員長 モウ一ツ特別陪審ノ中デ特ニ專門ノ陪審

官ヲシテ、例ヘバ情狀ノ問題デアルトカ、或ハ累犯者デアルトカ、是等ノ者ニ對シテ科學的ト申シマスカ、或ハ學術的ト申シマスカ、サウ云フヤウナ審査ヲスル陪審ヲ造ッタドウカ云フ點ニ付テモ御研究ニナッタカト思ヒマスガ、如何デスカ

○林政府委員 本案立案ノ際ニハサウ云フ點ニ段々論ガアッタ、併シ今日陪審制度ハ或ル範圍ニ限定ヲスル、其結果ニ依ッテ或ハ擴張スルモ宜シカラウト云フヤウナ考ト、今御尋ノヤウナ事ハ鑑定ト云フコトガアリマスカラ、大體其方法デ目的ヲ達セラル、ト云フコトカラ議論ノアリマシタ結果、此法案ニハ認メナカッタ次第アリマス

○鵜澤委員長 ソレデハ是デ質問ノ打切トシテ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○鵜澤委員長 ソレデハ質問ハ是デ終了ニナリマシタ、明日ノ午前十時カラ會議ヲ開キマシテ此案ノ討論ヲ致シマス、イゾレ公報デ御通知ヲ致シマス

午後零時四分散會

大正十二年二月二十六日印刷

大正十二年二月二十七日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局